

日本地質学会第 119 年学術大会 (2012 大阪) 講演プログラム (口頭)

■ 9 月 17 日 (月) 午前

会場	U ホール	第 1 会場	第 2 会場
	S2. 西日本の海溝型地震と津波を考える	R15. 古生物	R12. 岩石・鉱物の破壊と変形
	座長：倉本真一 (1-7)	座長：石田 桂 (1-4), 金 光男 (5-7)	座長：高橋美紀 (1-4), 廣瀬丈洋 (5-9)
9:00	9:00 会長あいさつ. 石渡 明	10:00 海底面の保存を指示する新種の生痕化石. 金 光男 R15-O-1	9:15 岩石内部の応力状態を見る. 坂口有人・阪口 秀・柳澤和道 R12-O-1
	9:02 S2-O-1 南海トラフ沿岸湖沼からの警告. 岡村 真・松岡裕美	10:15 R15-O-2 伊豆半島の中新統湯ヶ島層群桜田層から産出した造礁サンゴ群集. 門田真人・富田 進	9:30 R12-O-2 弾性歪エネルギーの散逸機構の再検討. 滝沢 茂・酒井 亨・角田裕一・小澤佳奈
	9:25 S2-O-2 (招待) 河内平野の震度分布と大坂の津波到達点に見る, 安政南海地震 (1854) と宝永地震 (1707) の差. 都司嘉宣	10:30 R15-O-3 モンゴル産恐竜化石の盗掘実態と地球化学的手法を用いた学術的標本価値の再生 (予報). 実吉玄貴・西戸裕嗣・Khishigjavi Tsogtbaatar・Tsogtbaatar Chinzorig	9:45 R12-O-3 平面ひずみ圧縮された粘土のせん断帯の幾何特性. 佐野郁雄 R12-O-4
	9:48 S2-O-3 南海トラフの海底活断層調査と地震発生帯掘削. 芦 寿一郎	10:45 R15-O-4 岩手県久慈市の上部白亜系久慈層群玉川層より発見された陸生脊椎動物群. 平山 廉・藺田哲平・佐々木和久・小林快次・滝沢利夫・楠橋 直・安藤寿男・三宅優佳・大倉正敏・大石雅之・真鍋 真・對比地孝亘	10:00 R12-O-4 粘弾性構成則と分数階微分の幾何学. 長濱裕幸・谷島尚宏 R12-O-5
	10:10 S2-O-4 海溝軸への地震破壊伝播は南海トラフでも. 坂口有人	11:00 R15-O-5 パンサラッサ海起源のペルム紀・三疊紀境界遠洋性珪質岩層の岩相・化石層序の比較. 佐野弘好・桑原希世子・八尾昭・上松佐知子	10:15 R12-O-5 接触変成帯におけるチャート中の石英の粒径変化から見積った粒界拡散係数. 奥平敬元・坂東 光・吉田健太 R12-O-6
	10:25 休憩		10:30 R12-O-6 延岡衝上断層掘削コアの岩石物性と変形様式. 浜橋真理・斎藤実篤・木村 学・山口飛鳥・福地里菜・亀田 純・濱田洋平・藤本光一郎・橋本善考・柴田美緒・北村有迅・水落幸広・比名祥子・長谷和則・明石考行 R12-O-7
	10:30 S2-O-5 自然放射線とは. 今井 登		10:45 R12-O-7 瑞浪超深地層研究所周辺に分布する断層の形成・発達過程. 窪島光志・笹尾英嗣 R12-O-8
	10:53 S2-O-6 (招待) 放射能と放射線教育. 和澄利男		11:00 R12-O-8 有馬 - 高槻構造線六甲断層近傍の花崗岩中に発達する黒色脈状断層岩. 田中 誠・堤 昭人 R12-O-9
	11:16 S2-O-7 メディアから見た地学教育の重要性. 笹沢教一		11:15 R12-O-9 Pulverized rock の微細構造と粒径分布: サンアンドレアス断層と有馬高槻構造線. 中谷 剣・武藤 潤・西川 治・長濱裕幸・大槻憲四郎
	11:39 全体質疑・討論		

※講演番号は, シンポジウム (S), トピックセッション (T), レギュラーセッション (R), 国際ワークショップ (W) のそれぞれに, 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合, 講演要旨を正しいものとします. ※太字は代表発表者です.

日本地質学会第 119 年学術大会 (2012 大阪) 講演プログラム (口頭)

■ 9 月 17 日 (月) 午前

会場	第 3 会場	
	T3. 地層処分と地球科学	
	座長：吉田英一 (1-4), 渡部芳夫 (5-8)	
8:45	9:30 希ガス同位体を用いた活断層の調査手法の開発. 草野友宏・浅森浩一	T3-O-1 梅田浩司
	9:45 地層処分の観点から見た泥火山と異常間隙水圧. 高橋正明・風早康平・伊藤一誠・渡部芳夫	T3-O-2 関陽児
	10:00 最終間氷期の旧汀線間の高度関係から知られる隆起速度の変化. 荒井融	T3-O-3
	10:15 地層処分地選定のための地質環境調査技術の実証研究－沿岸域堆積軟岩地点の課題・成果と今後の展望－. 近藤浩文・木方建造・長谷川琢磨・濱田崇臣・鈴木浩一・吉村公孝	T3-O-4
	10:30 超長期を考慮した自然現象の確率論的評価手法の検討. 後藤淳一・西尾光・吉村公孝	T3-O-5
	10:45 長期の安全評価における地震・断層活動が起因する影響の連関とそれに伴う不確実性について. 大坪誠・宮川歩夢・伊藤一誠	T3-O-6
	11:00 既存地質要件(データ)に基づいたサイト選定に関する検討. 吉田英一・千木良雅弘・高橋正樹	T3-O-7
	11:15 地質環境長期安定性と第四紀後期日本列島の超長期地殻安定区の提案. 高橋正樹・吉田英一	T3-O-8

第 4 会場	
T7. ジルコン学	
座長：青木一勝 (1-3), 昆慶明 (4-6), 牧賢志 (7-9), 山本伸次 (10-12)	
8:45	T7-O-1 ジルコンのカソードルミネッセンスと年代測定への応用. 土屋裕太・鹿山雅裕・西戸裕嗣・能美洋介
9:00	T7-O-2 第四紀ジルコンのU-Pb年代測定における放射非平衡の影響の見積もりと補正. 坂田周平・岩野英樹・服部健太郎・檀原徹・平田岳史
9:15	T7-O-3 ジルコン結晶形とU-Pb年代. 安間了・折橋裕二
9:30	T7-O-4 ジルコンU-Pb年代頻度分布法に基づく, 花崗岩分類法の再検討. 鈴木和恵・山本伸次・昆慶明・牧賢志・平田岳史・丸山茂徳
9:45	T7-O-5 SHRIMPジルコンU-Pb年代測定による関東山地寄居地域から産するひすい輝石石英岩の起源. 福山繭子・小笠原正継・堀江憲路
10:00	T7-O-6 希土類資源としてのジルコンの研究: カナダNechalacho鉱床を例として. 星野美保子・渡辺寧・村上浩康・昆慶明
10:15	T7-O-7 ルオプサオフィオライトに産するポディフォーム・クロミタイトから得られたリサイクルジルコン: ジルコンから読み取るマントル内プロセス. 山本伸次・小宮剛・昆慶明・平田岳史・丸山茂徳・Yang Jing-Sui・Robinson Paul
10:30	T7-O-8 広域の低角度造山帯境界断層: 西南日本における石垣-玖珂構造線と碎屑性ジルコン年代頻度分布の対比. 青木一勝・磯崎行雄・佐藤友彦・牧賢志・横山隆臣・平田岳史
10:45	T7-O-9 川砂ジルコンの鉛, ハフニウム, 酸素同位体組成から探るアフリカ大陸地殻進化. 飯塚毅・キャンベルイアン・アレンシャーロット・丸山茂徳
11:00	T7-O-10 (招待) 二次イオン質量分析計 (SIMS) を用いたジルコンのリチウム濃度・同位体比組成の探求. 牛久保孝行・バレージョン
11:15	T7-O-11 カナダ・ラブラドル地域 (3.8 Ga) の地質とジルコン年代. 下條将徳・山本伸次・牧賢志・坂田周平・澤木祐介・青木一勝・石川晃・岡田吉弘・平田岳史・小宮剛
11:30	T7-O-12 冥王代研究: 太古代初期の地質体の再検討と冥王代ジルコン年代・地質分布に基づく初期大陸成長. 小宮剛

■ MEMO ■

(22)

※講演番号は, シンポジウム (S), トピックセッション (T), レギュラーセッション (R), 国際ワークショップ (W) のそれぞれに, 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.
※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合, 講演要旨を正しいものとします. ※太字は代表発表者です.

日本地質学会第 119 年学術大会 (2012 大阪) 講演プログラム (口頭)

■ 9 月 17 日 (月) 午後

会場	第 1 会場	第 2 会場	第 3 会場
	T4. 地球史イベント大事件 7	R14. テクトニクス	R4. 変成岩とテクトニクス
	座長：黒田潤一郎 (1-4), 山口耕生 (5-8), 小宮 剛 (9-11), 清川昌一 (12-13)	座長：丹羽正和 (1-4), 大坪 誠 (5-9), 加藤直子 (10-14)	座長：河上哲生 (1-4), 青矢陸月 (5-8), 岡本敦 (9-12)
14:30	<p>14:30 T4-O-1 リンの存在形態別分析から明らかにする約45~50Maの北極海の環境変動と生物地球化学循環 (IODP Exp 302). 橋本俊太・山口耕生・高橋孝三</p> <p>14:45 T4-O-2 K/Pg境界衝突起源衝突変成石英の平面変形構造 (PDFs) 分析によるクレーター近傍のイジェクタ飛散過程の解明. 常 昱・田近英一・後藤和久・関根康人</p> <p>15:00 T4-O-3 美濃帯層状チャートのOs同位体組成から復元された三疊紀後期天体衝突イベント. 佐藤峰南・尾上哲治・野崎達生・鈴木勝彦</p> <p>15:15 T4-O-4 三宝山付加コンプレックスの塊状玄武岩におけるかんらん石仮像中に産するフィラメント状微生物生体化石. 菅原久誠・榊原正幸・池原 実</p> <p>15:30 T4-O-5 地球史を通じた堆積性マンガン鉱床の変遷. 伊藤 孝</p> <p>15:45 T4-O-6 鉄マンガンクラストのOs同位体比層序：成長ハイエタス仮説の検証に向けて. 後藤孝介・野崎達生・鈴木勝彦・得丸絢加・白井朗・常青・木村純一・浦辺徹郎・NT09-02及びKY11-02航海乗船者一同</p> <p>16:00 T4-O-7 ブラジル・バイア州の新原生代スロンボライトの年代と生物活動. 狩野彰宏・古山精史朗・高島千鶴・白石史人</p> <p>16:15 T4-O-8 (招待) Structural control and age of the high-grade iron ores: The case of the Quadrilátero Ferrífero, Brazil. Rosière Carlos Alberto</p> <p>16:30 T4-O-9 太古代の31億年前のクリバービル縞状鉄鉱層の層序：DXCL2の掘削成果. 清川昌一・伊藤 孝・池原 実・山口耕生・尾上哲治・菅悠介・堀江憲治・坂本 亮・寺司周平・竹原真美・相原悠平</p> <p>16:45 T4-O-10 南アフリカ・バーバートン帯・マペペ層の 32億年前の海洋底堆積物の堆積環境. 寺司周平・清川昌一・伊藤孝・池原実・山口耕生</p> <p>17:00 T4-O-11 生命 vs. 非生命？ 地球史初期の堆積岩の鉄同位体記録. 山口耕生</p> <p>17:15 T4-O-12 カナダアカスタ片麻岩体に存在する初期太古代角閃岩の産状と岩石学的特徴. 越田漢子・小宮 剛</p> <p>17:30 T4-O-13 初期太古代Labrador地域Nulliak表成岩中の縞状鉄鉱層，炭酸塩岩，チャートの産状と地球化学的研究. 青木翔吾・石川 晃・下條将徳・澤木祐介・平田岳史・小宮 剛</p>	<p>14:30 R14-O-1 本州中部の中新世回転運動に対する新たな制約. 星 博幸・佐野正和</p> <p>14:45 R14-O-2 大陸衝突型造山帯のグラニュライト中に産出する珪長質火山岩様包有物：そのテクトニクスにおける重要性. 廣井美邦・柳 綾彦・加藤睦実・小林記之・B. プレーム・石川正弘・M. サティッシュ・クマール・外田智千・本吉洋一・白石和行</p> <p>15:00 R14-O-3 和泉堆積盆の熱テクトニクス. 清家一馬</p> <p>15:15 R14-O-4 和泉層群の傾動と褶曲形成：層面滑り断層による制約. 小山 俊之・山路 敦・佐藤活志</p> <p>15:30 R14-O-5 ホットスポットと太平洋プレートの運動：最近の知見. 星 博幸・山崎俊嗣</p> <p>15:45 R14-O-6 日本海溝沈み込み帯のプレート境界近傍の花崗岩と蛇紋岩. 石川正弘</p> <p>16:00 R14-O-7 層理面方位の記号表記システムについて -産総研地質図幅記号システム批判-. 山北 聡</p> <p>16:15 R14-O-8 反射法地震探査による高田平野東縁の地質構造. 加藤直子・石山達也・佐藤比呂志・蔵下英司・越谷 信・戸田 茂・豊島剛志・斉藤秀雄</p> <p>16:30 R14-O-9 赤石山脈を走る中央構造線の右横ずれ運動を示す姿. 坂本正夫</p> <p>16:45 R14-O-10 警固断層に伴う左横ずれ堆積盆の堆積作用と構造運動. 木村 克己・康 義英・花島裕樹</p> <p>17:00 R14-O-11 2011年4月11日福島県浜通りの地震で地表に現れた断層ガウジと元素移動の関係. 大谷具幸・山下光将・小嶋 智・若居勝二・各務和彦</p> <p>17:15 R14-O-12 阿寺断層系下呂断層と湯ヶ峰断層の並走部における破碎帯の特徴. 丹羽正和・水落幸弘・棚瀬充史</p> <p>17:30 R14-O-13 青森県白神岳花崗岩質岩体にみられるマイロナイトの形成過程と変形微細構造. 酒井 亨・西川 治・藤本幸雄</p> <p>17:45 R14-O-14 断層帯の階層的フラクタル幾可の普遍則：地震の多様を支配する鍵. 大概憲四郎</p>	<p>14:30 R4-O-1 南インドダルワール地塊，チトラドゥルガ剪断帯の構造発達とパンアフリカ造山運動. Chemnad Razak Abdulla Nasheeth・Takamoto Okudaira・Tomokazu Hokada・Kenji Horie・M. Satish-Kumar・Yuichiro Ueno・Kaoru Mishima</p> <p>14:45 R4-O-2 Variation of garnet zoning pattern in the pelitic gneisses and its implications to thermal history of Tseel terrane, SW Mongolia. Ulziiburen Burenjargal・Atsushi Okamoto・Noriyoshi Tsuchiya</p> <p>15:00 R4-O-3 東南極，中央部-東部ドロニングモードランドにおける変形史と左ずれトランスプレッション，引張テクトニクス. 豊島 剛志・小山内康人・馬場壮太郎・外田智千・中野伸彦・足立達朗・大坪 誠・野木義史</p> <p>15:15 R4-O-4 北海道神居古潭帯，幌加内-江丹別地域に産出する蛇紋岩メランジェ中の角閃岩ブロックの温度-圧力履歴. 岡本あゆみ・竹下 徹</p> <p>15:30 R4-O-5 沈み込み帯における蛇紋岩メランジェの形成過程の一考察：小笠原弧大町海山と北海道神居古潭帯の比較から. 植田勇人</p> <p>15:45 R4-O-6 スピニフェックス様組織を示す変成カンラン岩から見た肥後変成岩と日立変成岩の比較論. 西山忠男・恵口 響・潮崎大・田切美智雄</p> <p>16:00 R4-O-7 鉱物包有物の形成過程：ざくろ石斑状変晶中の石英の例. 岡本 敦・福田惇一・武藤 潤</p> <p>16:15 R4-O-8 下部地殻深度での部分熔融：長崎変成岩類の例. 宮崎一博・福山蘭子・池田剛・有馬和宏・牧 賢志</p> <p>16:30 R4-O-9 久万高原地域，ひわだ峠層中の結晶片岩礫のK-Ar年代. 高木 秀雄・向坂陽二郎</p> <p>16:45 R4-O-10 三波川帯における超苦鉄質岩類の分布パターンとその起源，及び白亜紀三波川沈み込み帯における大陸地殻の厚さ. 青矢陸月・遠藤俊祐・水上知行・ウォリスサイモン</p> <p>17:00 R4-O-11 変成交代作用における不安定界面成長と随 伴境界不安定. 鳥海光弘・福山蘭子</p> <p>17:15 R4-O-12 Channel flow model 検証の問題点. 林 大五郎</p>

※講演番号は，シンポジウム (S)，トピックセッション (T)，レギュラーセッション (R)，国際ワークショップ (W) のそれぞれに，口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします。 ※太字は代表発表者です。

日本地質学会第 119 年学術大会 (2012 大阪) 講演プログラム (口頭)

■ 9 月 17 日 (月) 午後

会場	第 4 会場	第 5 会場	第 6 会場
	R1. 深成岩・火山岩とマグマプロセス	T1. 地質情報の利活用	R9. 炭酸塩岩の起源と地球環境
	座長：壺井基裕 (1-4), 湯口貴史 (5-7), 越後拓也 (8-10), 足立佳子 (11-14)	座長：斎藤 眞 (1-4), 野々垣進 (5-8)	座長：松田博貴 (1-4), 山田 努 (5-7), 足立奈津子 (8-11)
14:30	<p>14:30 R1-O-1 北上山地における前期白亜紀の火成活動：特に遠野複合深成岩体の形成について。 御子柴真澄・蟹澤聰史</p> <p>14:45 R1-O-2 島弧地殻の部分溶融による太古代中期トータル岩・トロニウム岩・花崗閃緑岩 (TTG) の生成：マダガスカル東部地域の例。 市來孝志・石川正弘・小山内康人・中野伸彦・足立達朗・木村純一・仙田量子</p> <p>15:00 R1-O-3 山口県後期白亜紀防府バソリスの三次元形態：地質・岩石と重力異常からの推定。 今岡照喜・小室裕明・山脇恵理香・金折裕司・大川侑里・金田孝典・山本明彦</p> <p>15:15 R1-O-4 土岐花崗岩体のストロンチウム同位体比初生値の空間分布から推定する花崗岩体の貫入・定置過程および冷却固化過程。 湯口貴史・鶴田忠彦・國丸貴紀・西山忠男</p> <p>15:30 R1-O-5 世界一若い地表露出花崗岩の生成年代とその意義－北アルプス、黒部川花崗岩の U-Pb 年代とテクトニクス。 伊藤久敏・山田隆二・田村明弘・森下知晃・荒井章司</p> <p>15:45 R1-O-6 香川県小豆島における領家火成岩類中の同時性苦鉄質岩脈の形成過程。 小泉奈緒子</p> <p>16:00 R1-O-7 三宅島産灰長石巨晶に産する Al/Si 完全無秩序型灰長石。 越後拓也・星野美保子・木股三善・清水雅浩・松井智彰・西田憲正</p> <p>16:15 R1-O-8 冠高原デイサイト中に産するブロンザイト質斜方輝岩の岩石学的研究。 藤林紀枝・木村健太・山田綾実</p> <p>16:30 R1-O-9 IODP Hole 1256D の斜長石の組成累帯構造に記録されたシート状岩脈群基底部での部分溶融と同化作用。 宮下純夫・足立佳子・山崎秀策</p> <p>16:45 R1-O-10 Hole 1256D のシート状岩脈群基底部での部分溶融と同化作用：全岩化学組成からの検討。 足立佳子・宮下純夫・Exp. 335 乗船研究者</p> <p>17:00 R1-O-11 マリアナ海溝蛇紋岩海山から産出したカンラン岩の構造岩石学的特徴。 近藤洋裕・藤井彩乃・道林克禎・石井輝秋・Fryer Patricia・前川寛和</p> <p>17:15 R1-O-12 京都大学総合博物館に収蔵されたロンダかんらん岩コレクション：その歴史的・現代的意義。 小畑正明</p> <p>17:30 R1-O-13 北海道北西沖後志海山の玄武岩～安山岩溶岩に包有されるかんらん岩捕獲岩。 市山祐司・森下知晃・田村明弘・荒井章司</p> <p>17:45 R1-O-14 北部フォッサマグナ、荒倉山層火山岩類の岩石学的研究。 業田顕行・山元正継</p>	<p>14:30 T1-O-1 北海道新得町丸山、ワッカタリベツ川石灰華群。 廣瀬 亘・八幡正弘</p> <p>14:45 T1-O-2 震災後の海域における環境調査と海洋 GIS による解析。 笠谷貴史・山北剛久・山本啓之・北里洋</p> <p>15:00 T1-O-3 国際標準を活用した地質情報の公開について。 川畑大作・西岡芳晴・根本達也・北尾 馨・野々垣 進</p> <p>15:15 T1-O-4 地質図幅情報の配信と利用機能提供に向けての取り組み。 内藤一樹</p> <p>15:30 T1-O-5 地質情報発信における KML の活用－シームレス地質図での火山表示－。 西岡芳晴・中野 俊・長津樹理・野々垣 (眞坂) 淑恵</p> <p>15:45 T1-O-6 シームレス地質図等の地質情報の災害脆弱性評価への活用。 小荒井 衛・神谷 泉・乙井康成・中埜貴元・齋藤眞・宝田晋治・西岡芳晴</p> <p>16:00 T1-O-7 国土の基盤情報としてのボーリングデータ利活用のすすめ。 木村克己・大井昌弘・石原与四郎・根本達也</p> <p>16:15 T1-O-8 地質図に関連した JIS A 0204/0205 の改正とその要点。 鹿野和彦・斎藤 眞・尾崎正紀</p>	<p>14:30 R9-O-1 南中国のカンプリア紀前期最末期生物礁－古杯類礁消滅から微生物礁への変遷－。 足立奈津子・江崎洋一・劉 建波</p> <p>14:45 R9-O-2 揚子地塊における礁構築様式のレジーム転換前の条件－カンプリア紀中・後期の地球生物環境－。 江崎洋一・劉建波・足立奈津子</p> <p>15:00 R9-O-3 秋吉石灰岩下部ベルム系 Artinskian における微生物岩の多産と干潟堆積物の発達。 中澤 努・上野勝美・野々村奈美・藤川将之</p> <p>15:15 R9-O-4 ボリビア産白亜紀ストロマトライトの成因および堆積環境の地球化学的分析。 山梨純平・中森 亨・山田 努・山根広大・池原 実</p> <p>15:30 R9-O-5 白亜紀ストロマトライトの成長モデル。 中森 亨・山梨純平</p> <p>15:45 R9-O-6 インドネシア東ジャワ・カンゲアン島の新生代炭酸塩堆積システムについて。 八木正彦・島津 崇・一丸裕二・江森良太郎・松丸国照・Janson Xavier</p> <p>16:00 R9-O-7 鹿児島県トカラ列島小宝島東方陸棚上の礁岩の堆積学的特徴とその年代。 松田博貴・荒井晃作・井上卓彦・町山栄章・佐々木圭一・井龍康文・佐藤時幸・山崎 誠</p> <p>16:15 R9-O-8 久慈市内間木洞の石筍炭素同位体比変動と土壤堆積物中の花粉・植物ケイ酸体から推定される植生変化との関連。 加藤大和・山田 努・岡本 透・林原小都音・富塚昌宏・菊地敏雄・松田博貴・栗崎弘輔・吉村和久</p> <p>16:30 R9-O-9 非石灰岩地域における石灰岩カルスト地形の発見－千葉県、上総層群分布域からの報告。 浦田健作・加藤久佳・兼子尚知</p> <p>16:45 R9-O-10 トラバーチン堆積場での脱ガス誘導型沈殿を再現する新たな速度則。 奥村知世・狩野彰宏</p> <p>17:00 R9-O-11 石筍の炭素・酸素同位体組成と滴下水の同位体組成との定量的関係：鹿児島県沖永良部島水連洞におけるケーススタディー。 山田 努・松田博貴</p>

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R)、国際ワークショップ (W) のそれぞれに、口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。 ※太字は代表発表者です。